

割山椒

2個

- 【粘土】 まぜ白土 or まぜ赤土
- 【重さ】 1 kg
- 【手法】 タタラ作り 6 mm
- 【装飾】 色釉薬



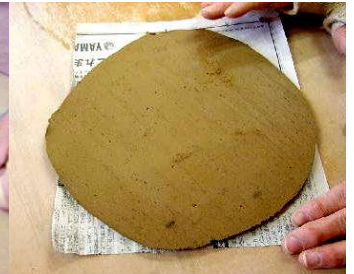
布の上に粘土を置き
たたいて平たくする。



タタラ板 12mm を左
右にセットしローラ
ーでのす。



6mm 分板をはずし
切金で2枚に切る。



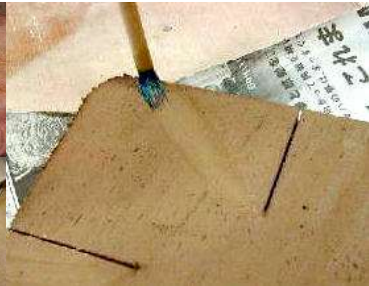
新聞紙にとる。



型を選び、粘土の上
に置いて針で切る。



切れ込みには中心
から外に向かって
針を入れる。



組み立てたときに
重なる部分に筆で
水をつける。



すり合わせて組み
立てる。



重なり具合が同じに
なるようにする。



底の部分は隙間が
ないよう特によく
接着する。



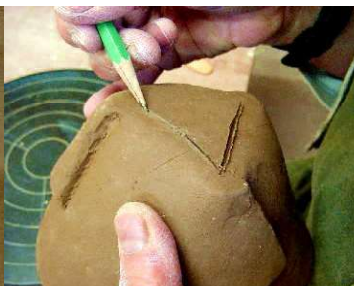
好みで少し開き加
減にしてもよい。



半乾燥させる。



半乾燥後、合わせ目
をよくなじませる。



底を削る。三角の
割山椒の場合。



三角に削る。



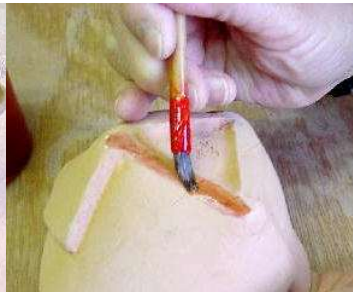
湿らせたスポンジで
縁をなめらかにする。



サインをする。



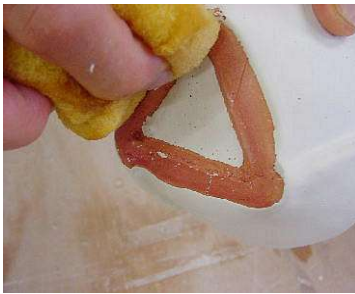
乾燥後、素焼。



素焼後、裏に撥水剤
をぬる。



釉薬を掛ける。



高台をスポンジで拭く。



ピンホールを指で
すりつぶし、本焼へ。

ワンポイントアドバイス 御本手とピンホール



焼き物の表面にピンクの雲状の模様がある作品を、御本手(ごほんで)と言います。全体に優しい風合いで、食器として、良く食物に合います。



御本手をよく観察すると、ピンクの中心にピンホールが必ず見え、理由は窯での焼き方にあります。還元焼成の場合、950℃～1180℃を、窯内部に一酸化炭素を充満させた還元状態にし、生地も釉も還元します。その後1180℃～1250℃は、窯内部が酸化になり、釉に開いたピンホールから酸素が入りこむ。その時、周辺粘土が酸化の色になり、還元の色との境目がピンクに発色します。